

今年の夏に (二)

倉 橋 生

名古屋の保育界は、疾く訪ふべくして其の機会を得ずに居た。七月十五日の夜、名古屋の停車場で出迎へて下さつた市保育會の方々にお目にかゝつた時には、今度こそ宿約を果したといふ心持ちがした。

講習會は市の第一高等女學校の講堂を會場として、翌十六日から三日間開かれた。問題は『幼稚園教育の本質』といふ題目で、會員諸君の熱心は充分に講師を喜ばした。たゞ、始めて此の地に幼稚園を論ずるといふ心持ちから、説き方を餘りに第一義的にして、保姆其の人の人情と常識とに保育の眞諦を求めようとしたことは、若い方には或は捕捉し難い様の感をさせたかも知れない。しかし、私は名古屋の保育界に、どうしても此の第一義諦を深思して貰はざるを得ない。保育は主義ではない。方法ではない。理論ではない。形ではない。保姆その人に即けることで各自の人情と常識とから、大膽に、しかも周到に生み出さるべきものである。

名古屋市の幼稚園は、豫て私の非常に興味を持つて居たところである。市立の幼稚園が三つと、その外に幾多の私立幼稚園があつて、その私立幼稚園が基督教主義のもの、佛教主義のもの、皇風主義のもの、其の設立の趣旨、目的の色彩がハッキリして居るのである。市立幼稚園を純教育上の公民幼稚園とすれば、私立の三幼稚園は、設立者の人生に對する特別な主義信念によるものである。之れに加ふるに社會事業的意味の二葉保育園がある。名古屋市の幼稚園は其數に於て必ずしも多いのではないが、實に特色ある各種の幼稚園の標本を集めたもの、様に見られる。幼兒教育の研究に一種の便利を興へるともいへる興味ある土地である。

基督教主義の幼稚園は、既に休暇であつた爲に觀ることの出来なかつたのは遺憾である。しかも其の出色ある保育方針と、永き經驗ある園長の熱心とは多くの人々から聞いたことである。殊に其の美しい庭園を見ることの出来なかつたのも遺憾であつた。

二葉保育園も、時がなくて訪ふことが出来なかつた。しかし、園長から其の特別な苦心のお話をいろいろと伺ふことは出来た。普通の幼稚園よりも何倍か六かしいのは所謂保育所を教育的に充實することである。當事者の骨折りも並み大抵のことではないと思ふ。其後新築も出来て、その紀念の繪葉書を送つて頂いた。誠によろこばしいことである。名古屋は土地柄、將來に於て益々此種の保育事業を要すべきところである二葉保育園の發達を祈らざるを得ない。

佛教主義の佛陀會幼稚園は、木津無庵氏の主宰せられるところで、石田馥子氏が主任保母である。今は普通の住宅風な建物で、門から奥深い玄關の具合、苔のついた庭の趣き、拭きこんだ柱や椽の光澤、どこ迄も落ちついた、家庭的な、しつとりとした幼稚園である。幼児の居るところを見ることは出来なかつたが、あの設備では、きつと靜かに、しんみりした保育が出来ること、思つた。しかし、佛陀會幼稚園は、こゝでまだ満足せずして、新築の工を起し、近く其方へ移ることになつて居る。其の發展や實に賀すべきである。新築の方は未だ見ることが得なかつたが、其の設計等に就ては木津氏から詳しいお話

を伺つた。その中でも私の殊に興味を以て期待して居るのは、禮拜室と、コルク敷きの床とである。新築の後を見たいものである。

皇風幼稚園は、第一第二に分れ共に朝倉尙綱氏の主宰せらるゝところで、第一の方は工藤壽子氏が主任保母第二の方は駒形くら子氏が主任保母である。尙朝倉夫人も力を添えて居られる。朝倉氏の皇風主義に就て茲に詳しく述べることは出来ないが、我國民の生活は一つに我國建國の大本義に基いて、其の精華を發揮することに努めなければならぬといふ主張である。而して、此の主旨は幼児の教育から充分徹底せらるべきであるといふのが、皇風幼稚園の起された精神である。而して此の精神は、保育の實際には勿論、室内の裝飾にも、研究上の圖表の如きものにも顯はれて居る。此の深い、眞に深い處まで入らなければ、ほんとうには分らない此の精神が、どこ迄此形にあらはれて居るかは吾々の測れないことであるが、兎に角く、此の特色ある幼稚園の一面の特色だけは青かるゝのである。

私の口癖の如く言ふ様に、我國には考へた幼稚園が少ない。だから、一ツツ々の幼稚園が眞に特色を

もつといふことが少い。謂はば幼稚園に各の主張が少ない。僅に方法の上の違ひ位で、根底的の主張の違ひが對立する程に、しつかりした銘々の考へに基礎をおいて居るものが少い。之れは我國の此頃の様
に、教育といふものを一ツの普遍的な圖策として行ふだけで、教育者その人の主義、精神に根ばえさせることの少い處では己むを得ないことであるが、吾々には常に物足りない處がある。わざと特色を塗り看板の様に、製造したり高揚したりする要はない。教育は、そんな淺はかなものではない。しかし、余は斯く信ずる。余に取つて、人生は必ず斯うでなければならぬといふ主義信念のある人が、その自分の主義信念から教育を生み出し、實行してゆくといふ様のことも、あつて欲しいものだと思つて居る。勿論その主義信念の善し悪しを考へなければならぬが、善し悪しよりも先決的な問題は、主義信念の有無しである。

私は名古屋で、此の主義の幼稚園を見ることを豫ねての興味として居たのである。殊にそれを對立的比較に於て見ることを興味として居たのである。興味としたと言つては濟まないかも知れない。實際私

は、主義の幼稚園に尊敬を以て居たのである。我が信ずるところを以てする以外に、眞の教育は出来るものでないからである。

市立第一幼稚園は、足立由三郎氏を園長に、坪内キク子氏を主任保母に。市立第二幼稚園は岡田惠市氏を園長に、市川たま子氏を主任保母に。市立第三幼稚園は、中島伊勢三郎氏を園長に、東郷繁子氏を主任保母に。それ／＼熱心に其の内容の充實をはかつて居られる。坪内氏は東京女子高等師範學校保育實習科の先輩で、名古屋に於ける保育界の最古參者である。室内、遊園ともに工夫考案に充ちて居ると言つてよい。市川氏は奈良女子高等師範の出身、東郷氏は東京女子高等師範の出身で、兩氏とも幼稚園教育には未だ新しい方々であるが、其の素養と一般教育に於ける豊かな經驗とを以てして、將來に大に期待すべきものがある。斯教育の爲に斯くの如き力強い働き手を得て居ることは、流石に中京保育界であると思つた。

最後に尙ほ一言して置き度いことは、此の、それ／＼特色のある幼稚園の揃つて居る名古屋保育界に於て、各園の保母諸君が、互によく協和し、研究、

親睦、ともに歩を共にして居らるゝことである。之れは豫て此の地を見た大阪の竹村君からも、特に聞いて密に喜んで居たことであるが、親しく此地に来て此の感を更にした。土地の廣さからいつても、保姆諸君の數からいつても、事を共にするに丁度いゝのである。殊に、將來のある名古屋保育界である。

尙ほ遠慮なくいへば、もう一步之れからといふべき名古屋保育界である。而して此の有望なる將來は市教育當事者諸君、公私各幼稚園のそれ／＼有力なる園長諸君のお力と共に、保姆諸君の固く而して温い結束によつてのみ期待せられ得るのである。萬々一、群雄割據の勢を呈する様なことがあつたら、それは銘々自分で自分の神聖な仕事を破るものである、實に名古屋保育界の爲に、最も必要大切なことは、いつ迄も今日の如く、保姆諸君の結束と、協同の研究によつて進まれることである。

三日間の豊なる感想と諸君の厚き好誼に對する感謝とを以て名古屋を立つたのは十九日の朝であつた

二

此の夏の保育講習旅行に於て、私の心に記録すべきことはいろ／＼とあつた。しかも、特に私として

欣悅禁じ能はなかつたことは、名古屋から岡山へ、皇風幼稚園の朝倉尙綱氏、市立第一幼稚園の坪内キク子氏、佛陀會幼稚園の石田馥子此の三氏が、私と行を共にせられたことである。三氏とも、名古屋に於ける講習會の幹部の人々として連日何かとお忙しかつた。其の後を一休みする間もなく、引つゞいて岡山まで行を共にせられたのである。

汽車中の吾々の談話は、保育の問題から、いつの間にか、もつと他の問題に觸れて行つた。人の子の教育といふ問題から、自分自身の問題に移つた。昨日は、如何にして人の子を教育すべきかを考へた吾々である。明日は又同じく、人の子の問題を考へるべき吾々である。その間に、吾々は、教育者から全然自分に歸る數時間を持つたのである。

吾々の會話は靜かに続き、時に靜かに切れた。あの騒々しい亂雑と轟音との車室の中で、吾々の口は靜かに自分自身の爲に語り、吾々の耳は靜かに自分自身の聲を聞いた。而して其の相黙して居る間々に、來りて吾等の心の傍へに居たものに、法念があつた。基督があつた。親鸞があつた。

斯くて夕波の須磨明石を過ぎて、夜八時、岡山に着いた。